

## 知性と出会う「東京オトナ大学」 12月1日(日)開催

～「変なホテル」富田直美氏の基調講演、大学講義が無料で受講できる～

株式会社ジェイアール東日本ビルディング（代表取締役社長 石川明彦）は東京ステーションシティのサピアタワーにおいて、12月1日（日）に『東京オトナ大学』を開催いたします。

第9回目となる今回は、先端技術を利用した挑戦の数々によりハウステンボスをV字回復に導いた「変なホテル」の立役者である富田直美氏による基調講演のほか、サピアタワーに入居している11大学の講師陣が、地域活性やグローバル、科学技術やマーケティング、憲法・健康・医学など、様々なテーマについて「これからの日本」を考える講義を行います。

尚、参加申し込み受付は10月31日（木）から東京オトナ大学 WEB サイトで開始する予定です。



とみた なおみ  
基調講演 **富田 直美 氏**

1948年静岡県生まれ

株式会社 hapi-robo st 代表取締役社長

ハウステンボス株式会社取締役 CTO

一般財団法人社会開発研究センター理事など数多くの経営に携わる。  
現在、「変なホテル」をはじめ、ロボットプロデュースの第一人者として活躍中。

### 「東京オトナ大学」とは

“知性と出会う”をコンセプトに、サピアタワーで開催する知的情報発信イベントです。各界の著名人による基調講演のほか、サピアタワー入居大学による講義が受講できます。

### 【実施概要】

- 開催日：2019年12月1日（日） 13:00～18:00（受付開始 12:00）
- 会場：ステーションコンファレンス東京 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー4・5階
- 申込：東京オトナ大学 WEB サイト <http://www.otonadaigaku.jp/> ※10月23日オープン
- 主催：株式会社ジェイアール東日本ビルディング
- 協賛（講義提供）：※50音順  
関西大学、関西学院大学、甲南大学、産業能率大学、事業創造大学院大学、西南学院大学、  
東京大学 先端科学技術研究センター、東北大学、北海道大学、立命館アジア太平洋大学、流通科学大学
- 協力：東日本旅客鉄道株式会社、東京ステーションシティ運営協議会
- 一般問い合わせ：東京オトナ大学事務局 TEL 03-6386-4911（平日 11:00～18:00）※10月31日開設

■ 基調講演 (15:00~16:00)

講演者	テーマ/講演内容
株式会社hapi-robot 代表取締役社長 とみた なおみ <b>富田 直美</b> 	<b>「変なホテル」の立役者が語る ～人が幸せになるためのテクノロジー～</b> 世界初のロボットホテルとして、ギネスの世界記録に認定された「変なホテル」のプロデュースなど、多方面に活躍する豊富な知識や経験と、E-trinity (自己・自然摂理・環境経済) の概念を基に、人間が幸せな生活を送るには何が必要なのか、これからの日本の課題について独自の視点でお話しいただきます。

■ 講義 (13:00~14:30/16:30~18:00)

<13:00~14:30>

※大学名の50音順

講義者	テーマ/講義内容
関西大学 総合情報学部 教授 なとり りょうた <b>名取 良太</b> 	<b>「選挙が教える民主主義の限界」</b> 選挙は、民意を政治に反映させるための重要な機会であり、民主主義の根幹である。私たちは、選挙についてこんな風に理解していますが、果たして本当でしょうか？選挙を研究していると、答えはむしろ逆であることに気づかされます。選挙は、民主主義の限界を教えてください。もともと選挙は民意の一部しか反映してくれません。選挙をしたのに多数派の意見が一切反映されないことがあります。そもそも投票に行くのはおかしなことでもあります。選挙に関するこうした研究成果や、日本の選挙に関する分析結果を紹介しつつ、その「限界」を知っていただいた上で、民主主義についてあらためて考える機会にしたいと考えています。
関西学院大学 法科大学院 教授 いのうえ たけし <b>井上 武史</b> 	<b>「日本国憲法の現況と課題—憲法改正論議の眺め方」</b> 日本の憲法議論では、いまなお「改憲/護憲」というイデオロギー的な枠組みで語られることが多いように思いますが、それではいつまでたっても生産的な議論になりません。本講義では、第1に、データや事実に基づいて、日本国憲法の特徴や現況を客観的に明らかにし、第2に、他国の憲法との比較を通じて日本国憲法を相対的に見ることで、憲法が立憲主義・民主主義の様々な構想に開かれていることを示したいと思います。本講義で提供する情報は日本ではほとんど知られていないものですので、今後の憲法改正論議の際に役立てていただければ幸いです。
甲南大学 准教授 かわうち けいこ <b>川内 敬子</b> 	<b>「がん細胞の謎を解く～がんの予防と治療に向けて～」</b> 生涯のうちがんにかかる可能性は、男性の場合2人に1人、女性の場合3人に1人と推測されています。がんはとても身近な病気であるからこそ、がん細胞について知ることは重要です。がん細胞は、遺伝子に変異することで、正常なコントロールができなくなった自律的に増殖する細胞です。さらに、がんが進行するにしたがって、がん細胞は高い浸潤能・転移能を持つようになります。本講義では、がんの成り立ちと進行の分子メカニズムを解説し、自分でできる予防対策やこれからのがん治療について考えます。
産業能率大学 経営学部 教授 こごま あつし <b>小々馬 敦</b> 	<b>「若者の生活価値観研究から見え始めた2030年日本のミライ」</b> マーケティングの進化を研究している私のゼミでは2015年より「高校生・大学生の生活価値観と消費行動」の変化を追跡研究しています。“未来は突然登場するよう見えて実は、その姿は若者の行動の中に見え始めています。”本講義では、日本マーケティング協会のご支援をいただき、ゼミ生が運営している産学協同の若者研究会「ミライ・マーケティング研究会」において、実務家と学生が対話して洞察した“ミライ社会の姿”を提言。そして、社会、先端技術、生活意識の進歩を背景として、今の若者が消費・働き方・就職(キャリア)・ネットワークそしてマーケティングのミライについてどのようにしたいと考えているかを報告します。
西南学院大学 人間科学部 社会福祉学科 准教授 たはら りょうじ <b>田原 亮二</b> 	<b>「一億総活躍社会における健康と運動・スポーツ」</b> 2016年に閣議決定された「ニッポン一億総活躍プラン」の課題の一つには、高齢者の活躍が挙げられています。そしてそのために必要な条件として高齢者が健康であることが考えられ、高齢者の健康を保持増進するためにどのような取り組みをするかが焦点となってきます。本講座では超高齢社会に突入して10年以上が過ぎた我が国において、高齢者の健康状態がどのようにあるのか、健康の現状に対してどのようなことができるのか、そして、これから高齢を迎える人々が何をしておけばよいのかについて多角的に考えてみたいと思います。

北海道大学 東京オフィス所長 やまだ さわあき <b>山田 澤明</b>		<b>「日本のイノベーションを考える」</b> 日本は、イノベーション（発明）はあるがイノベーション（革新）がない、と言われていました。特許の出願数はまだ世界トップの水準にありますが、バブル経済崩壊以後、経済成長率は低下し、国際競争力の評価も大きく下がりました。一方、世界的にみると、情報技術革新の進展とともに、GAFAをはじめとする新しい産業が台頭しています。このような状況下で、今、日本の多くの人々が期待しているのが、イノベーションです。イノベーションとは、創造的破壊です。それでは、日本ではなぜイノベーションが起きないのか、イノベーションのためには何を变えなければならないのか、について皆さまと考えます。
---	---	--

<16:30~18:00>

※大学名の50音順

<b>講義者</b>	<b>テーマ／講義内容</b>
事業創造大学院大学 副学長・教授 くろだ たつや <b>黒田 達也</b>	<b>「新潟からのチャレンジ～AI×AI×AI」</b> 本学は新潟にて起業家や企業内イノベーターを育成し、新潟経済を活性化させ、東京への有為な人材の流出を防ぐことを建学の理念としています。そこで、Artificial Intelligence（人工知能）を活かせる人材を育成し、Alien Inside（ヨソモノあるいは外国人の活用）により多様性の中から新たな発想と活力を生み、Agricultural Innovation（農的あるいは自然や人に寄り添う技術革新）により真に豊かな生活・人生の創出を目指し、日々実践的な教育および研究を行っております。そんな「これからの日本」のあるべき姿を踏まえた、新潟からのチャレンジの様子をご紹介します。
東京大学 先端科学技術 研究センター教授 たまい かつや <b>玉井 克哉</b>	<b>「科学技術に国境はない。でも権利に国境はある？ -- 研究と法律の間で」</b> 「5G」と呼ばれる通信規格の実用化が、いよいよ目前に迫ってきました。携帯端末の通信速度は上がるだけでなく、タイムラグを置かずに応答する特性にも優れていることから、自動運転や遠隔医療といった次世代技術にもブレークスルーが期待されています。だが、それに影を落としているのが米中通商摩擦です。「科学技術に国境がない」という前提がにわかに危うくなり、技術とビジネスに政治と国際関係が大きく影響しつつあります。このような現象をどう見ればよいのか。また、将来はどうなるのか。そうした点について、知的財産と法から見ればどのように考えられるのかを、「技術安全保障」というのをキーワードに解説します。
東北大学 大学院農学研究科 応用生命科学専攻 准教授 のち ともり <b>野地 智法</b>	<b>「ミルクに含まれる免疫のちから ～母乳を介して子に伝わる母の偉大さ～」</b> ヒトは、受精から誕生までの280日という長い時間をかけて母の体内で发育した後、出生します。誕生したばかりの子は、さらに母乳を介して母の恩恵を受け続け、成長します。言い換えれば、母は妊娠中のみならず出産後も、数年単位の直接的な愛情を子に注ぎます。分娩後の母体は、ミルクを作るための乳腺と呼ばれる器官を、乳房の内に発達させます。さらには、体内の免疫細胞を乳腺に集結させることで、ミルクの中に免疫力を宿させます。生まれたばかりの未熟な子を、様々な病原体から守るべく、母は出産後も身を挺して働き続けます。この母乳に秘められた免疫のちからが母体の中でどのように作られるのか、その不思議を解説したいと思います。
立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 教授 アルカンタラ <b>ALCANTARA</b> ライラーニ ライネサ <b>Lailani Laynesa</b>	<b>「Inclusive leadership: why and how it matters?」</b> <b>「インクルーシブ・リーダーシップとは？」</b> Diversity is pursued across industries and organizations. However, the benefits of diversity are often not realized. With the changing business landscape and deepening talent crisis, the need for a leadership that leverages the value of diversity is paramount. In this session, you will learn why and how inclusive leadership is a key to thriving at work and creating competitive advantages in the highly diverse world we have today. 「インクルーシブ・リーダー」とは、多様な価値感を多様な個性・能力・資質ととらえ、多様性を組織の力に変換するリーダーと定義します。多様性を組織の価値向上や、国境を越えた人材獲得競争にどう活用するかを議論しましょう。 ※講義は英語で実施されます。The class conducted in English.
流通科学大学 人間社会学部 准教授 やまぐち しろう <b>山口 志郎</b>	<b>「スポーツツーリズムの推進が地域を変える ～ステークホルダーとの連携・協働を通じて～」</b> 来年に迫った東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、スポーツ産業の高度化が進む中、地方においては独自の地域文化を活用したスポーツツーリズム推進の取り組みが活発化しています。スポーツ庁は、2019年より「アウトドアスポーツツーリズム」と「武道ツーリズム」を重点テーマに設定し、地域での具体的な事業サポートを行っています。スポーツツーリズムを推進する際に重要なことは、地域の自然・文化資源を活用しつつ、いかにその地域のステークホルダーと連携・協働を行うかです。本講義では、地方で先進的に行われているスポーツツーリズムの成功事例を取り上げながら、これからの日本ないしは地域の在り方について考えます。

**【参考】これまでの基調講演** ※所属、肩書は開催当時のものです

- 2011年 JAXA 宇宙科学研究本部 宇宙航行システム研究系教授 川口淳一郎氏  
『はやぶさ』—地球帰還までの7年間 60億 km の運用の軌跡、それを支えたもの—  
日本テレビ「NEWS ZERO」メインキャスター・関西学院大学教授 村尾信尚氏  
「それでも私たちは立ち上がる」
- 2012年 サイエンス作家 竹内 薫氏  
「環境と科学の共存を目指して」—それでも我々は科学に賭けるしかない—
- 2013年 株式会社東レ経営研究所 特別顧問 佐々木常夫氏  
「これからの時代の経営とリーダーシップ」
- 2014年 藤原正彦氏  
「東京、そして日本のこれから」
- 2015年 映画作家 河瀬直美氏  
「映画に生きる美しき日本」世界と繋がるユニバーサルな日本文化の創造をめざして
- 2016年 アルピニスト 野口 健氏  
「富士山から日本を考える」—環境との共生と地方創生—
- 2017年 日本ホテル株式会社 ホテルメトロポリタン エドモント 取締役統括名誉総料理長 中村勝宏氏  
「食のおもてなし」—洞爺湖サミットの場合—
- 2018年 株式会社 KEN OKUYAMA DESIGN 代表取締役 奥山清行氏  
「伝統技術のブランディングと地方創生」—日本のものづくりを考える—